

院長コラム

聖書の一節から
From the Bible
+

Everything that happens in this world happens at the time God chooses.

何事にも時があり
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

(コヘレトの言葉3章1節 新共同訳)



西南学院 院長
いまい なおき
今井 尚生

どんなに一生懸命頑張っているつもりでも、どううまくいかないという時があります。勉強において然り、演奏やスポーツの練習、また仕事においても然り。そのような時、私たちの心は焦りと諦めの間を揺れ動きます。しかし、たとえ目に見える形で結果は出ていなくても、見えないところでは確実に変化が起こっており、実現の時を待っている、ということもあるのではない

でしょうか。例えば、地に蒔かれた種は、すぐに芽を出すことはありません。水をやり続ける毎日、やがて芽が出るのを待つ時です。表面的には何も変化が見えなくても、土の中では確実に根が伸び始めています。私たちが知らないだけで、やがて芽吹き、成長して、実りの時を迎える準備が着実に進んでいるのです。古人の言葉はそのことを私たちに伝えてくれています。

School Organization Chart

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて、保育、教育を実施しています。 ※データは2021年9月現在



西南学院大学

学生数:約8,200人

1949年開設。人文・社会系総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。



西南学院中学校・高等学校

【高等学校】生徒数:約1,300人

全学年、毎日1限目から7限目まで7時間の授業が行われています(月曜のみ8時間)。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。知識の習得はもちろんです。物事の善し悪しを判断する知恵と「自分にして欲しいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会で生かしていくかを学びます。

【中学校】生徒数:約650人

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に伸ばすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施しています。6年間にわたるゆとりあるカリキュラムと恵まれた環境の中で、生徒たちが自ら考え、自発的に学ぶ姿勢を身に付けると同時に、聖書の学びやクラブ活動、国際交流、ボランティア活動等を通して、豊かな人格形成ができるように配慮した教育を実施しています。



西南学院小学校

児童数:約420人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」知恵を育むことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。環境に配慮して設計された校舎内は最新の教育機器を備えており、教育の質的向上が図られています。



西南学院舞鶴幼稚園

園児数:約170人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかたたくましいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに「隣人愛を育む」知恵を育むことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。環境に配慮して設計された校舎内は最新の教育機器を備えており、教育の質的向上が図られています。



西南学院早緑子供の園(保育所)

園児数:約100人

0歳児から5歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細かな育児を心がけています。「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもたちを育てよう」というキリスト教の礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。

Vol.9

October 22, 2021

西南学院広報誌
あか れん が
赤煉瓦通信
～一粒の麦から～
2021年10月22日発行(年2回発行)
学校法人西南学院 総合企画部 広報・校友課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248
koho@seinan-gu.ac.jp

【“一粒の麦”について】

「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくことが創立者の思いであり、今もなお大切に受け継がれています。

西南学院
<https://www.seinan-gakuin.jp>
西南学院大学・大学院
西南学院中学校・高等学校
西南学院小学校
西南学院舞鶴幼稚園
西南学院早緑子供の園(保育所)



八坂圭「Leaping lights」2017年

西南学院広報誌

あか れん が 赤煉瓦通信 Vol.9

October 22, 2021

～一粒の麦から～

【特集】

西南学院と芸術

西南学院



若い時に合った芸術を自身の土台にするために

西南学院
中学校・
高等学校

音楽科では、学習が主体的・対話的で深い学びであることをモットーとし、その実現のための授業デザインと実践的な授業を行っています。

中学校では、今年度から自ら学ぶ学習プランの一つとして、ICT機器を介した「パフォーマンス課題」を取り入れています。評価には、目標の達成基準(ルーブリック)を事前に提示し、知識とともに表現力を身に付けます。その結果、多くの生徒が一つの課題から幅広いテーマで研究を行い、論述や発表を通して豊かな知識とパフォーマンス能力を身に付けることができました。

高等学校では、より専門性の高い内容での授業と実技指導を実施しています。歌唱以外にも、ギターやドラム、箏、ハンドベルと多岐にわたる器楽実技を経験します。器楽以外にも、楽曲研究や論述課題、プレゼンテーションを行い、自らの言葉での表現力を身に付けることも大切にしています。

中学校・高等学校という最も感性豊かな時期に出合った芸術は自らの根幹となり、多様な芸術への理解は多文化理解や多文化共生にも通じます。このようにして、音楽科も世界で活躍できる「真のインテリ」を育む西南学院の教育の一端を担っています。



さまざまな楽器に触れ、音楽を楽しむことを大切に



iPadやアプリを活用し、自宅で実技試験の音源収録も可能に

【特集】
西南学院と芸術

芸術が教えてくれること

西南学院の大学・各学校・園・保育所では、成長段階に合わせた芸術・情操教育を行っています。取り組む内容はさまざまですが、共通するのは上手であることや優秀であることではなく、一人ひとりの個性や感性を尊重し、創造の喜びを体験することを大切にしています。

西南学院
小学校



五感が感じ取ったまま表現し創造の喜びを味わってほしい



春のアートウィークでは校内が華やかに彩られる

芸術教科の授業に向かう子どもたちはとてもうれしそうで、また意欲的に活動に取り組む姿も喜びで溢れているように感じます。他の教科では味わえない心地よい開放感もあるのでよい。幼い時から芸術教科が大切に取り扱われる環境の中で育つことは、子どもたちの成長にとって、とても重要なことであり、五感を存分に働かせて活動することを大切にしたいと考えています。春のアートウィークは、「季節の移り変わりに五感を働かせながら、『観て』『感じ』『考え』『描く』ことで、自分の周りの自然や植物を創られた神様の素晴らしさを知る」「小さな花にも自分たちにも命を与えてくださる神様への感謝の気持ちを育む」「一人ひとりが自分の表現を大切に、創造の喜びを味わう」などを目的として行われていますが、子どもたちの作品からは、春の暖かさや喜びが伝わってきています。

偉大なクリエイターである神様の最高傑作である子どもたち一人ひとりが、神様が創造された世界で生きることの喜びを知り、子どもたち自身もまたクリエイターとして豊かな人生を送ることを心から願っています。



芸術は、私たちの暮らしのそこかしこに



西南学院大学
人間科学部 児童教育学科
教授 黒木 重雄

1962年、宮崎県生まれ。筑波大学芸術専門学群卒業、同大学院芸術研究科修士課程修了。文化庁芸術家在外研修1年ニューヨークに派遣。1996年より西南学院大学へ。2013年、宮崎県文化賞受賞。熊本県現代美術館、兵庫県立美術館に作品収蔵。

ありふれた景色の中にも誰かの価値観の発露が

通学途中に聴く音楽にも、お気に入りの服にも、手に取ったペットボトルにも誰かの芸術的視線が注がれています。人間らしい営みをもたらすもの多くに芸術が影響し、私たちは意識せずとも日々そうした誰かの価値観の発露に触れているわけです。そして、それは異なる価値観を認めることにつながり、多様性を尊重する基礎が培われていきます。

数多く触れることで見えてくるものがある

美術館などを訪れる機会があれば、美しいと思える作品から一見気味が悪く思われるものまで、さまざまな芸術に触れてみてください。その中で「好き」と感じたり、共感できたり、心震わす出会いがあれば、そこから素晴らしい世界が広がるかもしれません。芸術だけでなく、スポーツでも他の分野でも興味の趣くまに、多くの扉を開けてみるといいでしょう。



西南コミュニティセンターに飾られている「One day」(2014年)は、第20回岡本太郎現代芸術賞展で特別賞受賞

西南学院
大学



西南学院大学博物館展(2020年)で展示された「Somewhere(2017年)」

高い目標を掲げることで「まだまださ」を知る

私は毎日絵を描いています。はたから見れば、楽しそうに見えるかもしれませんが、実は逃げ出したくなるような孤独な時間です。しかし、この辛さ乗り越えた先に達成感や幸福感があることを知っているので描き続けられています。皆さんの夢や目標も同じだと思いますが、高い目標を掲げると自分の「まだまださ」が分かります。少しずつでも昨日より成長しよう、前へ進もうという気持ちになり、努力することができるのではないのでしょうか。



現代社会を生き抜く心の豊かさを育むために

全身絵の具まみれで思う存分感性のままに



泥団子の重さや温度を体験することを大切に

西南学院
舞鶴幼稚園



内から湧き上がる表現意欲を尊重

西南学院
早緑子供の園
(保育所)

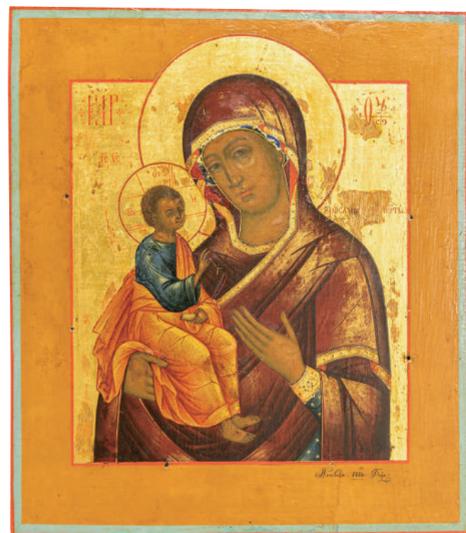


園児の心が動き、表現意欲が湧いてくる環境づくり

地面をキャンバスにダイナミックな作品が完成

大きな紙に筆と絵の具を準備して行う「絵の具遊び」では、体中絵の具まみれで紙に思いきりぶつかったり、「触感遊び」では片栗粉やぬかで粉まみれになったり、何かに「まみれ」ながら体験する機会を大事にしています。柔軟に素材を受け止め、素直に表現し、感覚を研ぎ澄ませるなど、幼児期はできるだけ多くの実体験をさせて表現意欲を育てたいと考えています。その経験を通じ、どんな出来事も前向きに転換できる心の豊かさにつなげていきたいです。

乳幼児期の子どもの豊かな感性と表現は、日常生活の中で生まれ、育まれます。木の枝や石を使って地面に絵を描いたり、粘土をこねて動物や想像したものを立体的に作ったり…。子どもの心が動き「表現したい」という意欲が湧いてくるよう、保育室には季節に合わせた装飾をし、子どもの作品を大切に飾ります。また、園児が表現することを楽しむ中で、一人ひとりの感性や表現が異なることに気付き、互いを受け入れる姿も大切にしたいと思っています。



1

【エルサレムスカヤの聖母】 1816年・ロシア

⇒西南学院大学博物館蔵

正教会の礼拝において重要な役割を果たす宗教画、イコン(聖像画)。本作はエルサレムの聖母といわれ、背景には金箔を使用。

【特集】
西南学院と芸術

西南学院アート探訪

西南学院の敷地を歩けば、ふとした瞬間にアートとの出会いがあります。



2

【時禱書零葉(受胎告知図)】 1500年頃・ヨーロッパ

⇒西南学院大学博物館蔵

繊細な表現が目を引き、羊皮紙に手彩色で彩られた印刷揺籃期の祈禱書の断片。全体を輝かせる金色は神の光を表現しているかのよう。



3

【フランス時禱書 全使徒への祈り】

1510~20年・フランス

⇒西南学院大学博物館蔵

時禱書は、信徒が祈りを私的に行うための書物。本資料は、イエス・キリストと使徒が描かれ、欄外の装飾など16世紀まで流行した時禱書の伝統的な様式が施されています。

※2022年3月まで、1・2・3の所蔵品を公開しています。ぜひ実物を見に西南学院大学博物館へご来館ください。

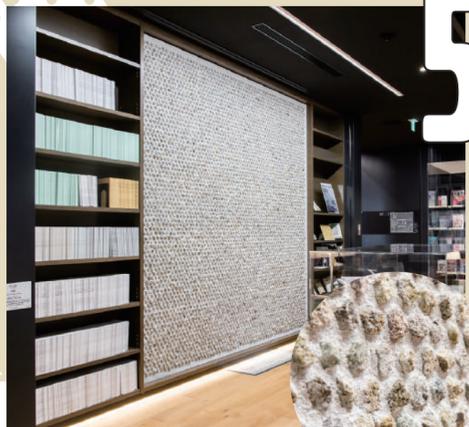


4

【New World/袴田京太郎】 2016年

⇒西南学院大学図書館内、1F東側インフォダイナー

天井から吊られた12体の彫刻は、哲学者、侍女など本の架空の登場人物。本の世界と現実世界のはざまを漂っているのでしょうか。



5

【記憶/田中良和】 2017年

⇒西南学院大学図書館内、1F中央ブラウジング

図書館建設時に採取した砂に、松の木灰などを混ぜて焼き固めたブロックを並べた作品。元寇防塁の風景や歴史も意識しています。

6



【ステンドグラス/天国の鍵】 19世紀後半

⇒左:西南学院中学校・高等学校エントランス
右:西南学院大学図書館エントランス

中学校・高等学校のチャペルを彩るステンドグラスと、大学図書館のステンドグラスは一対になっています。19世紀後半にイギリスで制作されたと推測され、キリストの降誕(中学校・高等学校)とキリストの復活後(大学)が描かれています。

7



【宇宙-COSMOS/山根久美子】 2004年

⇒舞鶴幼稚園内、エントランス螺旋階段の壁面

天の川の流れや星の動きをイメージした大中小70の作品が壁面に散りばめられています。卒業生でもある作者が子供たちの限らない可能性を表現しました。



8

【西南学院小学校アートギャラリー】

⇒西南学院小学校内、3Fアートギャラリー

図工の時間に制作した作品を展示し、多くの仲間と喜びや楽しみを分かち合う場です。



9

【卒園記念共同制作作品】

⇒早緑子供の園内、2F廊下

「みんないつもいっしょにあそんでくれてありがとう」というテーマで年長児が卒園前に共同制作をした作品を展示しています。

卒業生作品

西南学院を卒業し、芸術の世界に羽ばたき、活躍を続ける卒業生の方が多いです。ほんの一部ではありますが、作品と卒業生のプロフィールをご紹介します。



10

【Leaping lights/八坂圭さん】 2017年

1980年 西南学院舞鶴幼稚園卒業 1993年 西南学院高等学校卒業

色の組み合わせから生まれる光の響き合いなど、見る人に視覚異常の反応をもたらす感覚的な響きを、絵を通して追求。困難から飛び抜ける瞬間の眩しさと救いをテーマとした作品。



11

【I CAN'T STOP ME/ヨシフク ホノカさん】

2020年

2019年 西南学院大学人間科学部卒業

レトロでポップなタッチのイラストで幅広い世代から人気を博す。絶えず変化し続ける時代とともに、勢いよく自分の人生を駆け抜けるイメージを表現した作品。



12

【YELLOW SPACE

~秘密の花園~すいとよ/楠本 恵子さん】 2021年

1975年 西南学院大学経済学部卒業

太陽の光=黄色を基調に描いた作品を軸に個展を開催。夢=希望を表現した「YELLOW SPACE~秘密の花園~すいとよ~」は、第74回女流画家協会展で葦崎大村美術館賞を受賞。

西南学院小学校開校10周年



西南学院小学校 校長
みやざき りょういち
宮崎 隆一

豊かな関わりの中で、 道を切り開く力を培って

西南学院小学校は、2010年4月に開校し、2021年3月で10周年を迎えました。開校当初は、1~3年生で始まりましたが、1~6年生が揃ったときは、一つの節目を迎えることができたと感じました。授業や学校行事も年々、充実したものになっていきました。本校では、開校当初から互いを助け合い、自主性を育む宿泊行事を全学年で行っています。また、「隣人愛を育む」「知恵を育む」という二つの教育目標をいかに具現化するかという視点を柱に、友人同士や教職員との豊かな関わり合いの機会を大切にしてきました。

児童の皆さんには、知識の積み重ねはもちろん、キリスト教主義に基づき、精神的な土台をしっかり築き、人としての基礎を育む6年間を過ごしてもらいたいと思います。混沌とした時代においても、自らが恵まれた環境にいることに感謝し、他者のことも心に留めながら、力強く人生を切り開いていってほしいと願っています。

- 1 毎日聖書のお話を聞くチャペルは、全卒業生にとっての思い出の場所
- 2 吹き抜けで明るい校舎は学年を越えたつながりが感じられる構造
- 3 赤煉瓦が印象的な正門は地域のランドマークにも
- 4 木の温もりを感じる教室

卒業生

個性を生かし、自分らしく歩む 礎を築けた小学校時代

慶應義塾大学 環境情報学部2年
いそまた りりこ
磯俣 凛々子さん (西南学院小学校 2013年卒業)

両親が西南学院出身で、私自身も西南学院舞鶴幼稚園の卒業生でした。西南学院の自由で個性を伸ばしていただける教育に家族で共感していたため、開校時点で3年生として入学しました。

日々の生活で印象に残っているのは、開放感のある吹き抜けの図書館や毎日のランチタイム、3年生の時点から最上級生という意識を持って臨んだ学校行事、そして、挑戦の連続であったオーストラリアでの修学旅行です。今思い出しても、常に先生方に見守られ、安心感に包まれた、楽しいことばかりの4年間でした。

現在、私は大学でビジネス書の『シン・ニホン』で有名な安宅和人先生の研究室に1年次から属し、日々、社会人メンターの方からさまざまな学びを得ながら、自主性を求められる環境で過ごしています。時には迷い、落ち込むこともあります。小学校時代から持ち続けている聖書を開いては聖句に励まされています。特に好きな聖句は「狭き門より入れ。滅びに至る門は大きく、その道は広い」で、小学校時代のように個性を生かして、人と違う道であっても自分らしく歩んでいこうと気持ちを引き締めることができている。



伸び伸び個性を磨いた小学校での4年間



西南学院小学校在校時の磯俣さん

節目を迎えた西南学院の各学校の歴史を振り返り、

その学びを得て成長した卒業生と共にご紹介します。



ハワイ大学の語学研修修了式で撮影



研修旅行で行ったアントワープにて

半世紀かけて協定校は 世界中の100校以上に

国際交流の歩みは、半世紀前、米国・ペイラー大学、ニューヨーク州立大学オネオタ校と国際交流協定を締結したところから始まりました。最初は、学生交換と交換教授制度をスタートさせましたが、当時こうした国際交流を行った大学は全国的に見ても珍しく、九州では最も早く制度が誕生しました。

年々、協定校を増やし、多くの学生に海外留学の機会を届けてきました。今では、102校の協定校があり、英語圏だけでなく世界中で学ぶことができます。留学の種類も短期から約10カ月の長期までさまざま。今後も学生の声に応え、より充実したプログラムを提供していきます。

また、海外から多くの留学生を迎え入れ、「キャンパスの国際化」も推進しています。大学にある3つの寮全てを国際寮として、日本人学生と留学生と一緒に生活する環境を整えたり、学内で留学生との様々な交流イベントを実施したり、留学をせずとも学内で国際交流ができる機会を提供しています。

卒業生

国際センターの 心温まるサポートには 今でも感謝

Across Cultures 代表
エリコ
ダコスタ 枝理子さん (西南学院大学 国際文化学部 2007年卒業)

高校生の頃から服飾や絵画に興味があり、作品の作り手が他国の文化からインスピレーションを得ていることを知り、国際文化について学びたくて入学しました。短期語学留学でハワイ大学、派遣留学ではサンディエゴ州立大学、研究旅行奨励制度ではベルギーのアントワープに赴き、語学や各地の文化を学ぶ機会を得ました。留学にあたっては迷ったり立ち止まることのないほどに国際センターの職員の方からサポートをしていただきました。留学先に国際センターからクリスマスカードが届き、心温まるケアに感謝しました。

卒業後は10年以上にわたり、多国籍な仲間と仕事をする環境に恵まれ、時にはうまくいかないこともありましたが、その経験を生かして、現在は多文化組織の異文化理解を促進し、活性化のお手伝いをしています。自分を知る、相手を知る、お互いの文化的背景を理解し、配慮するというのは難しいものです。粘り強さも必要ですが、大学の国際交流の経験で学んだ「自分と相手のために適応した行動をとる」という基軸を大切にしながら、これからも多くの方の国際交流のサポートができるようにスキルアップを続けていきます。

10th ANNIVERSARY



1 3号館1階では普段からさまざまな国籍の学生が集い、学内の国際交流の場となっている
2 Language Exchangeや季節のイベントなど、留学生との交流イベントを月に1~2回程度、定期的に開催
3 コロナ禍により、現在はオンラインでイベントを実施



西南学院大学
外国語学部外国語学科 教授
国際センター 所長
みやま やとひろ
清宮 徹





今回のテーマは
「ダイバー
シティ」

教えるよりも
考えさせる習慣を大切に

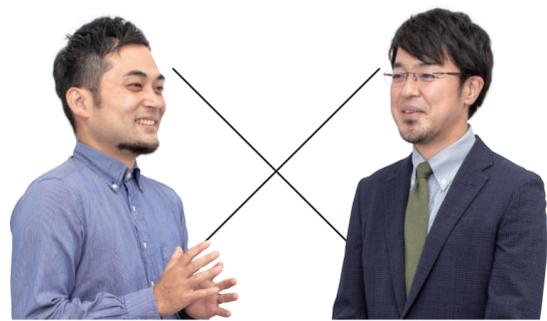
一推葉 「ダイバーシティ」、つまり多様性を尊重し合うという考えを子どもたちに伝えていくやり方はさまざまだと思いますが、幼稚園ではどのように伝えていますか？

一永尾 一般的にダイバーシティというと、人種や信仰なども入ってくるかと思いますが、園においては一人ひとりの違いや個性を大切に考えています。例えば足の遅い子や背の低い子、行動がゆっくりな子、言葉がうまく出てこない子など人それぞれ違いがあります。まだまだ幼い子どもたちなので、深く考えずにからかったり、嫌な気持ちになるようなことを言ってしまうことがあります。それをダメだと頭ごなしに諭すのではなく、「どうしたらいいのか」「何と云えばいいのか」など周りのみんなを含めて一緒に考える機会を持ちます。一度でどうすべきか、分からなくても考える習慣をつけ、数年かけて少しずつ他者との違いを理解し、関わり方を学んでほしいと考えています。

一推葉 すぐに教えてしまうのではなく、考えさせるのは大切ですね。人として生きていくための幹の部分の教えていくのは中学校・高等学校も同じです。私たちが「人権・『同和』教育特設授業」に力を入れ、前・後期

学びの現場から

西南学院の大学・各学校・園・保育所では、学生、生徒、児童、園児の成長のために教職員が丸となり、より良い教育を目指して日々さまざまな取り組みを行っています。



西南学院舞鶴幼稚園／教諭
なご ゆうじ
永尾 雄治

西南学院中学校・高等学校／教諭
しいば ともき
推葉 朋貴

の年2回、いじめや障がい、部落問題などについて学びの機会を持っています。事前学習映像と講演、教室授業の3本立てで行っていますが、これはあくまでもきっかけづくり。私たちが幼稚園と同様に、日々の関わり方を大事にしています。教職員の発言の一つ一つにも価値観がにじみ出るので常日頃から聖書に触れ、襟を正すような気持ちで過ごしています。

聖書の教えをしっかりと伝えて

一永尾 幼稚園では、そうしたことを具現化するために「複数担任制」を取り入れ、教諭が子どもたちと余裕を持って接することができる環境を築いています。また、「話し合

い活動・係活動」などを通して、子どもたちが主体性を持てるようにも工夫しています。自分を大切にしながら、周りの友達を気遣う気持ちも生まれ、違いや個性を丸ごと受け止められるような育ち合いができればと願っています。当園はスクールバスがなく、必ず保護者の方々と顔を合わせるので朝と帰りに子どもたちの様子を伝え、コミュニケーションをとることも意識しています。

一推葉 日々の考えの積み重ねは大切ですね。中学校・高等学校では、2019年度より特別支援体制を充実させるための委員会が開始しました。以前は担任やスクールカウンセラーが個別に対応していましたが、一つに集約し、チームとして支援に当たるための仕組みを作っています。また、ハード面におい



さまざまな遊びや活動を通して、自分と違う個性をそのまま受け入れることが自然にできるように

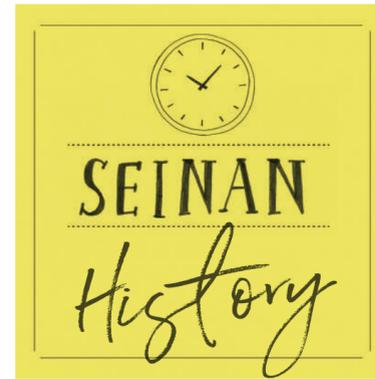
ても、エントランスや体育館の入り口に自動ドアを設置したほか、教職員各自にiPadが支給され、生徒の情報の共有がよりスムーズになりました。また高校女子の制服にスラックスやネクタイも選択肢に入れるなど、時代に合わせた変化も遂げています。

一永尾 時代に応じて変化する部分と、聖書の教えに基づいた普遍的な考え方の両輪で、生徒たちに伝えているんですね。

一推葉 そうですね。年に数度の特設授業や個別のケースに対応する以上に、日々のチャペル講話や聖書の授業を通じて、多様で普遍的な価値観に対応できる人材の育成を目指しています。教えたからといってすぐに実践できる類のものではないかもしれませんが、毎日生徒たちの心に種を蒔くことを続けていきたいですね。



人権・『同和』教育特設授業を通じて、知識と想像力を身に付ける機会に(写真は、過去開催分)



西南学院History

【第3回／波多野培根(はたのますね)】

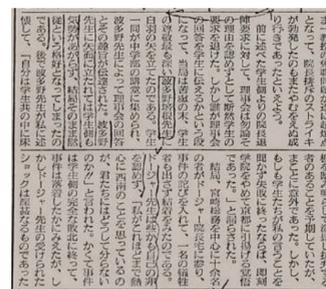
100年以上の歴史を誇る西南学院には、後世に伝えるべき歴史やストーリーがたくさんあります。このコーナーでは西南学院にまつわる歴史を紹介していきます。

西南学院の学年暦に刻まれている「波多野培根先生記念日」。彼がどれほどの功績を収めたのかを日々の中で意識する機会は、皆さんにはもしかしたらほとんどないかもしれません。しかし、学年暦に名前を挙げて記念日が設けられているのは、創立者であるC.K.ドージャーと彼のみ。それほど、波多野培根という人物は偉大なのです。今回は、彼が西南学院の歴史を語る上でどれだけ重要な存在なのかを改めて振り返ってみましょう。

波多野培根(1868年～1945年)は、儒学教師である父の影響を受け、幼い頃から儒教の教えの中で育ちました。その後、同志社英学校に進み、キリスト者の新島襄に薫陶を受けてキリスト教の道に入りました。その新島襄が遺言で、同志社の将来を託し、期待をかけた若者の一人が波多野です。そして、同志社大学をはじめとする日本各地での教育・伝道活動の末、53歳で西南学院に赴任してきました。ちょうど、現存する西南学院最古の建築物である西南学院旧本館・講堂(現大学博物館)が着工された1920年のことです。

彼の薫陶を受けた教え子たちにより
今もなお受け継がれる思想と生き方

彼は、実に多くの学生たちから人望を集め、慕われていました。それを物語る出来事が1928年に起こった西南学院史上の一大事件「日曜日問題」です。ドージャー院長は「キリスト教に基づく人格教育」を一貫した教育理念に掲げていたため、当時の西南学院では、主の安息日である日曜日にスポーツに興じることは禁止されていました。ところが、キリスト教の伝統と社会的習慣を持たない日本の学生たちの間では次第に不満が生まれ、やがて院長排斥のストライキが勃発しま



「日曜日問題」についての記事。当時西南学院大学の学生だった三串一士教授によって語られている

現在の西南学院大学の
礎を築いた男
教育者・波多野培根の
生涯に触れる



波多野培根、53歳着任当時の写真

す。もちろん理事会は要求を認めませんでした。誰がこの回答を学生に伝え、暴動を収束させるのか…という話し合いが持たれることに。そこで、学生と理事会の橋渡し役を務めたのが波多野培根だったのです。学生たちは「波多野先生が矢面に立つとなればこれ以上は争えない」と、最終的に黙従せざるを得ませんでした。

さらに、彼の思想や生き方は学生たちだけでなく、後の西南学院の教育にも多大な影響を与えています。

彼が教育者として生きた時代は、第一次世界大戦や日中戦争、太平洋戦争と、日本が軍国主義に染まっていった頃でもありました。しかし、偏狭で独善的な愛国教育が国内に蔓延していたことを、彼は良しとしなかったのです。そして1944年6月3日、西南学院精神文化研究所の開所式で「基督と愛国」と題した講演を行い、「自己の国家の利益のみを考えて他国を顧みない本能的愛国と正義人道を標準とする道義的愛国」を比較し、後者こそが日本を永遠の安泰に導くのだと雄弁に語りました。残念なことにその翌年である1945年11月7日に78歳で天命を全うすることとなりましたが、彼の教えは脈々と継承されています。事実、「忘れえぬ人々」(待農堂、1968年)で彼の思い出を綴った伊藤祐之(元西南学院中学校長)や波多野培根研究に尽力し遺稿集『勝山餘韻』の刊行委員も務めた村上寅次(元西南学院大学教授・学長)らなど、多くの教え子たちは教育者の道を進んだのです。

現在、2361冊にもおよぶ蔵書は大学図書館に「波多野文庫」として設置されています。明治、大正、昭和と3代を教育者として駆け抜けた波多野培根一。まさに、彼がいたからこそ今日の西南学院があると言っても過言ではないでしょう。



波多野の教育の土台には常にキリスト教信仰があった。授業前の祈祷の様子(中央の和服姿が波多野培根)



教え子たちが後生に遺した波多野にまつわる資料

SEINAN TOPICS

大学・各学校・園・保育所の近況

西南学院高等学校卒業生の
水町孝太郎さんが
東京2020オリンピックに出場

西南学院高等学校出身で、現在は、日本ハンドボールリーグ「豊田合成ブルーファルコン」で活躍中の水町孝太郎選手が、ハンドボール男子日本代表に選出され、東京2020オリンピックに出場しました。惜しくも1次リーグで敗退しましたが、強豪ポルトガルを1点差で下し、1988年ソウル大会以来33年ぶりの五輪での勝利を挙げました。自身も得点を決めるなど、大活躍だった水町選手にお話を伺いました。



豊田合成ブルーファルコン
ハンドボール男子日本代表
みずまち こうたろう
水町 孝太郎さん
(2013年 西南学院高等学校卒業)

西南学院高等学校ハンドボール部に所属し、卒業後は日本大学へ進学。実業団の選手として日本一になることを目標に、豊田合成ブルーファルコンに入団。2021年、日本代表に選ばれ、東京2020オリンピックに出場。



高校生時代の一枚。久しぶりに母校に来ると家族に会うような気持ちに



1試合1試合に全力を注ぎ、日頃の練習の成果を披露する水町選手

■まずは、東京オリンピックご出場おめでとうございます。

ありがとうございます。選出された時は素直にうれしさと同時に、責任や覚悟、使命感が芽生えました。大会を終え、チームの目標であった決勝トーナメント進出とはなりませんでしたが、33年ぶりとなる1勝を挙げられたことは私の人生にとって宝物です。

■西南学院高等学校時代を振り返っていかがでしょうか。

真夏も真冬もグラウンドでプレーしていたので、環境面ではこれまでのハンドボール人生の中で最も大変でした。しかし、その経験があるからこそ、どんな環境でも対応できているのだと胸を張ることができます。恩師である井手孝行先生には、今でも時々お会いして「お前が選ぶ道なら全力で応援する」と背中を押し、励ましていただいています。

■豊田合成に入団後も日本選手権で最優秀選手賞を受賞するなど目覚ましい活躍が続いていますね。

いちばんの原動力は「ハンドボールが好き」という強い気持ちですが、大小かかわらず目標を口に出すことで実現へと結びつけていく言霊を大事にしています。実力が伴わないうちは批判を受けることもあるかもしれませんが、言い続けるこ

とで良いプレッシャーと責任感が育まれ、自分がやるべきことに注力することができます。

■今後の目標について聞かせてください。

小さい頃からの夢だった実業団の選手になり、日本選手権で優勝してMVPにも選ばれました。そして、東京2020オリンピックに出場し、2021-2022シーズンは、1年間期限付き移籍が決まってドイツでプレーするチャンスにも恵まれました。せっかく手にしたチャンスをより大きな成功へと結びつけるために、とにかく邁進していきます。

■最後に、西南学院の卒業生や在校生へメッセージをお願いします。

私は小学校4年生の時にハンドボールに出合っただけで自分の道を見つけましたが、それまでは野球・サッカー・テニスにバスケットボールとさまざまなスポーツに触れる機会に恵まれました。スポーツに限らず、自分の好きなこと、やるべきことを見つけ、継続することはとても大事だと思います。その道の途中で経験する挑戦・失敗・成功はどれも糧になり、目標を一つ一つ乗り越えていくことで人生がより良いものになると感じています。

水町孝太郎選手を応援する
パブリックビューイングを行いました

7月28日、中学校・高等学校チャペルにてハンドボール男子日本代表戦(VSエジプト)のパブリックビューイングを行いました。当日は、和佐野健吾元中学校・高等学校長(元ハンドボール部顧問)や中学校・高等学校ハンドボール現役部員など学校関係者が参加し、水町選手に大きな声援を送りました。試合は前半25分、水町選手が得点を挙げる活躍を見せましたが、惜しくも敗れました。試合終了後、参加者は水町選手の健闘をたたえていました。



参加者へメッセージを送る水町選手



会場が一体となって水町選手を応援

西南学院早緑子供の園(保育所)

児童教育学科の学生と
楽しい夏のひととき

7月21日、28日、西南学院大学人間科学部児童教育学科との交流授業が本園のセンターホールにて行われました。授業に参加した3~5歳児は、忍者になった学生に新聞紙を使った修行を伝授してもらったり、手作りの影絵を鑑賞したりして、交流を持ちました。子どもたちは「また忍者来るかな?」「テレビ(影絵)おもしろかったね」と次の機会を楽しみにしています。



児童教育学科の学生と夢中になって遊ぶ園児たち

西南学院舞鶴幼稚園

夏の思い出に
「お祭りごっこ」を開催

毎年行っていた「まいづるまつり」ですが、今年はコロナ禍により中止に。地域のお祭りも軒並み中止となる中で、それでも子どもたちに少しでもお祭り気分を味わってほしいという思いから、学年ごとに「お祭りごっこ」を行いました。園児たちは甚兵衛や浴衣を着て、親子で露店の買い物ごっこを楽しみました。



夏祭り気分を満喫する園児たち

西南学院小学校

誰かの役に立つ
プログラミングを实践

6年生が情報の学習でプログラミングを活用したゲームを制作しました。ゲームは、縦割りペアを組んでいる1年生がマウス操作に慣れるために作ったものです。6年生は、相手を意識しながら試行錯誤し、ゲームを完成させました。ペアの1年生に喜んで遊んでもらうことで、プログラミングを活用することの良さを実感することができました。



1年生に配慮しながら進める6年生

西南学院中学校・高等学校

NASA公式教育プログラムで
宇宙飛行士と無線で交信!

『西南スクールコンタクト』と題して、宇宙飛行士とアマチュア無線で交信するNASA公式教育プログラムのイベントが実施されました。イベントでは、希望者の中から選ばれた生徒が決まってドイツでプレーするチャンスにも恵まれました。せっかく手にしたチャンスをより大きな成功へと結びつけるために、とにかく邁進していきます。



練習を重ね無線交信に臨む緊張の瞬間

1年越しの開催となった
西南祭「CANVAS」

生徒会が入念に企画し、感染対策をしっかりと行いつつ、生徒みんなで作り上げました。メインテーマ「CANVAS」に込められた、【歴代の先輩が築いてきた伝統に、自分たちの手で彩りを重ねていく】という思いを見事に体現した西南祭となりました。賑々しく、笑顔で溢れた素敵な2日間は、生徒達の大切な思い出となりました。



階段に大きく描かれたメインテーマ「CANVAS」

新型コロナウイルス感染症
ワクチン職域接種を実施

新型コロナウイルス感染対策として有効とされるワクチン接種について、外部医療機関との連携により、学生・教職員、学院関係者を対象に校内施設での集団接種を行いました。集団接種第1回目は7月8日から、第2回目は8月17日から実施し、新型コロナウイルス感染症の収束に向け、約3,100人がワクチン接種を受けました。



校内でワクチン接種を受ける学生



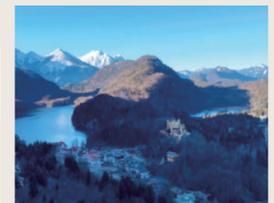
西南学院
早緑子供の園(保育所)
保育士 原口 真菜

世界中の自然や人に触れ
心身ともにリフレッシュ

旅行が好きで、コロナ前は国内外問わず、1~2カ月に1度のペースで行っていました。各地の大自然や人々と触れ合うことにより、心地良く、温もりを感じ、心身ともに洗い流されたような清々しい気持ちになります。今でも旅先での解放感を思い出すだけで気持ちが明るくなり、リフレッシュできます。



フィンランドのトナカイぞりから見た一面に広がる雪景色。どこまでも真っ白で幻想的



ドイツのノイシュヴァンシュタイン城近くの湖。空気が澄んでいて思わず深呼吸